



# 7 故障かな? と思ったときは

---

Express5800/ftサーバが思うように動かずに「故障かな?」と思ったときは、故障と疑う前にこの章を参照してください。



# エラーメッセージ

Express5800/ftサーバになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

## ランプによるエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの前面や背面、ハードディスクのハンドル部分にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな？」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については2-15ページの「ランプ」をご覧ください。

## 液晶ディスプレイからのエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの液晶ディスプレイは、Express5800/ftサーバの状態を随時表示します。エラーが起きると液晶ディスプレイにはエラーメッセージが表示されます。液晶ディスプレイに表示されるメッセージとその意味、対処方法について次の表に示します。



Express5800/320Lb(-R)は、本体前面に液晶ディスプレイがありませんが、MWAまたはESMPRO/ServerManagerから確認できます。

MWAおよびESMPRO/ServerManagerからの確認方法

- MWA

確認したいサーバを選択して、サーバメニューから[BMCダイアログの起動]を選択してください。BMCダイアログボックス上にサーバの電源状態やステータスLEDの状態とともに液晶ディスプレイの状態が表示されます。

- ESMPRO/ServerManager

統合ビューアから確認したいサーバを選択して、データビューアを起動します。データビューア上で確認できます。

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= A =					
AmbientTempAlm00	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度 (下限値) 異常警告	保守サーブिस会社に連絡してください
AmbientTempAlm02	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度 (下限値) 異常	
AmbientTempAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度 (上限値) 異常警告	
AmbientTempAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度 (上限値) 異常	
= B =					
BMC Unsync	—	—	PCIモジュール#1	BMCの同期が取れない	保守サーブिस会社に連絡してください
BMC0 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールのBMCが切り離された	しばらく続くようでしたら、保守サーブिस会社に連絡してください
BMC1 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#2		
= C =					
Cor0 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	保守サーブिस会社に連絡してください
Cor0 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
Cor0 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
Cor0 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	
Cor0 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
Cor0 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V (上限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 - 12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V (上限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIバスのパリティエラー	
Cor0 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	致命的なPCIバスのエラー	
Cor0 CLK Alm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (下限値) 異常警告	
Cor0 CLK Alm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (下限値) 異常	
Cor0 CLK Alm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (上限値) 異常警告	
Cor0 CLK Alm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (上限値) 異常	
Cor0 FAN Alm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 FAN Alm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
Cor0 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン3異常警告	
Cor0 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン4異常警告	
Cor0 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン5異常警告	
Cor0 offline	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが論理的に切り離されている	付サーバユニットがリセットで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 removed	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください
Cor0 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度 (下限値) 異常	また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度 (上限値) 異常警告	
Cor0 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度 (上限値) 異常	

表示	STATUランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
Cor1 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
Cor1 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
Cor1 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
Cor1 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
Cor1 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor1 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor1 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法	
	色	状態				
= C =						
Cor1 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください	
Cor1 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常		
Cor1 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V (上限値) 異常警告		
Cor1 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常		
Cor1 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V (上限値) 異常警告		
Cor1 -12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V (上限値) 異常		
Cor1 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIバスのパリティエラー		
Cor1 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	致命的なPCIバスのエラー		
Cor1 CLK Alm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (下限値) 異常警告		
Cor1 CLK Alm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (下限値) 異常		
Cor1 CLK Alm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (上限値) 異常警告		
Cor1 CLK Alm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (上限値) 異常		
Cor1 FAN Alm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン1異常警告		内部のファンに埃やチリが付着していないか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 FAN Alm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン2異常警告		

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン3異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン4異常警告	
Cor1 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン5異常警告	
Cor1 offline	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが論理的に切り離されている	付サーバユニットで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 removed	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度 (下限値) 異常	
Cor1 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度 (上限値) 異常警告	
Cor1 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度 (上限値) 異常	
CPU IERR 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1内部エラー	保守サービス会社に連絡してください
CPU IERR 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2内部エラー	
CPU IERR 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1内部エラー	
CPU IERR 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2内部エラー	
CPU T-Trip 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2熱変化 (上限値) エラー	
CPU0 +12ss Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 +12ss A1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 +12ss A1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12ss A1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +12vA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +12vA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +12vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +1.5vA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +1.5vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5vA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5VcA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5VcA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5VcA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 +2.5VcAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU0 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU0 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +3.3vsAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU0 +3.3vsAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU0 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU0 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +5.0vsAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +5.0vsAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU0 broken	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュール故障	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 FAN Alm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 FAN Alm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
CPU0 FAN Alm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン3異常警告	
CPU0 offline	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが論理的に切り離されている	行サーバーユニットで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 removed	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度 (下限値) 異常	
CPU0 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度 (上限値) 異常警告	
CPU0 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度 (上限値) 異常	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)警告	
CPU0 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU0 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧 (上限値) 異常(VCCP)警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU0 Vtt Alm 00	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 Vtt Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 Vtt Alm 07	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V (上限値) 異常警告	
CPU0 Vtt Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU00 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していなかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU00 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (下限値) 異常	
CPU00 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (上限値) 異常警告	
CPU00 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (上限値) 異常	
CPU01 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (下限値) 異常警告	
CPU01 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (下限値) 異常	
CPU01 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (上限値) 異常警告	
CPU01 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (上限値) 異常	
CPU2 +12ss Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +12ss Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +12ss Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
CPU2 +12ss Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU2 +12vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +12vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +12vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
CPU2 +12vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU2 +1.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +1.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常	

保守サービス会社に連絡してください

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
CPU2 +1.5vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V (上限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU2 +1.5vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V (上限値) 異常	
CPU2 +2.5vA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +2.5vA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +2.5vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +2.5vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU2 +2.5VcA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +2.5VcA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +2.5VcA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +2.5VcA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU2 +3.3vA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +3.3vA1m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vA1m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU2 +3.3vsA1m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vsA1m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +3.3vsA1m07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vsA1m09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	

= C =

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU2 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU2 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +5.0vsAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vsAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU2 broken	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュール故障	
CPU2 FAN Alm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン1異常警告	
CPU2 FAN Alm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン2異常警告	
CPU2 FAN Alm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン3異常警告	
CPU2 offline	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが論理的に切り離されている	
CPU2 removed	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが外れている	
CPU2 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (下限値) 異常警告	
CPU2 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (下限値) 異常	
CPU2 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (上限値) 異常警告	
CPU2 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (上限値) 異常	

内部のファンに埃やチリが付着していませんか？どうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください

付サーバユニットで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください

モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください

内部のファンに埃やチリが付着していませんか？どうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)警告	保守サーブिस会社に連絡してください
CPU2 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU2 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧 (上限値) 異常(VCCP)警告	
CPU2 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧 (上限値) 異常(VCCP)	
CPU2 Vtt Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 Vtt Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 Vtt Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V (上限値) 異常警告	
CPU2 Vtt Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V (上限値) 異常	
CPU20 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サーブिस会社に連絡してください
CPU20 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度 (下限値) 異常	
CPU20 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度 (上限値) 異常警告	
CPU20 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度 (上限値) 異常	
CPU21 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度 (下限値) 異常警告	
CPU21 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度 (下限値) 異常	
CPU21 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度 (上限値) 異常警告	
CPU21 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度 (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法	
	色	状態				
= D =						
DUMP Request!	消灯	—	—	DUMPスイッチ要求	保守サービス会社に連絡してください	
= F =						
FRB processing	消灯		—	POST実行中/OS起動中	正常動作しています	
= M =						
Memory U-Err 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#1の2Bitエラー	DIMM交換が必要です。保守サービス会社に連絡してください	
Memory U-Err 02	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#2の2Bitエラー		
Memory U-Err 03	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#3の2Bitエラー		
Memory U-Err 04	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#4の2Bitエラー		
Memory U-Err 05	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#5の2Bitエラー		
Memory U-Err 06	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#6の2Bitエラー		
Memory U-Err 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#1の2Bitエラー		
Memory U-Err 22	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#2の2Bitエラー		
Memory U-Err 23	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#3の2Bitエラー		
Memory U-Err 24	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#4の2Bitエラー		
Memory U-Err 25	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#5の2Bitエラー		
Memory U-Err 26	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#6の2Bitエラー		
= O =						
OS shutdown Alm	消灯		—	ウォッチドックタイムアウトによるシャットダウン (致命的)		保守サービス会社に連絡してください
= P =						
Power Off	消灯		—	DC OFFの状態		—

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= S =					
SSR processing	消灯		—	リカバリーブート中	DUMP採取中です
= W =					
WDT timeout	消灯		—	ウォッチドックタイムのタイムアウト発生 (致命的)	保守サービス会社に連絡してください

# POST中のエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。次の表に、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法を示します。

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
:
CPU=Pentium III Processor XXX MHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0212: Keybord Controller Failed.
:
Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

キーボードコントローラのエラーを示すメッセージ



「ハードウェア編」に記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧はExpress5800/ftサーバ単体のものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボード、などに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付のマニュアルを参照してください(Express5800/ftサーバのマザーボードにSCSIコントローラが搭載されている場合はこれらのメッセージも含まれています)。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクエラー。	(a) セットアップメニューの設定ミスです。 (b) ハードディスクが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。 (d) PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を調べてください。 (b) ハードディスクを交換してください。 (c) CPUモジュールボードを交換してください。 (d) PCIモジュールボードを交換してください。
0210 Stuck Key	キーボード接続エラー。	キーボードの接続不良です。	(a) キーボードを接続し直してください。 (b) キーボードを交換してください。 (c) PCIモジュールボードを交換してください。
0211 Keyboard error	キーボードエラー。	キーボードが故障しています。	(a) キーボードの接続状態を確認してください。 (b) サーバを再起動させてください。
0212 Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラエラー。	キーボードコントローラが故障しています。	(c) PCIモジュールボードを交換してください。
0213 Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロックされている。	キーボードがロックされています。	キースイッチのロックを解除してください。
0220 Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタの種類がCMOSと合っていない。	モニタ種類の設定ミスです。	(a) セットアップメニューからGet Default Valueを選んでください。 (b) CMOSをクリアしてください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0230 System RAM Failed at offset	システムRAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0231 Shadow RAM Failed at offset	Shadow RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0232 Extend RAM Failed at address line	拡張RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0233 Memory type mixing detected	メモリの種類が混在している。	違う種類のDIMMがインストールされています。	NECの推奨するDIMMに交換してください。
0234 Single - bit ECC error	1ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0235 Multiple - bit ECC error	2ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP	システムバッテリー寿命。	NvRAMのバッテリーが寿命です。	PCIモジュールボードを交換してください。
0251 System CMOS checksum bad-Default configuration used	CMOSのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0252 Password checksum bad - Password cleared	パスワードのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューでパスワードを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0260 System timer error	システムタイマのエラー。	PCIモジュールボードが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0270 Real time clock error	RTCエラー。	RTCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0271 Check date and time setting	日付と時刻の設定が不正。	RTCの日付と時刻設定が故障しています。	(a) セットアップメニューで日付と時刻を設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0280 Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の起動が正常に終了していない。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューの設定を確認してください。
02B0 Diskette drive A error	フロッピーディスクドライブAのエラー。	フロッピーディスクドライブAのエラーです。	フロッピーディスクドライブAを交換してください。
02B2 Incorrect Drive A type - run SETUP	ドライブAの種類が間違っている。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューを設定してください。
02D0 System cache error - Cache disabled	CPUキャッシュのエラー。	(a) CPUが故障しています。 (b) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) CPUを取り換えてください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0B1B PCI System Error on Bus/Device/Function	PCIバスのシステムエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(a) PCIデバイスボードを交換してください。 (b) PCIデバイスボードをもう一度取り付け直してください。
0B1C PCI Parity Error on Bus/Device/Function	PCIバスのパリティエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(c) PCIデバイスボードの設定をやり直してください。
0B22 CPUs are installed out of order	CPUの故障。	CPUが故障しています。	CPUを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0B28 Unsupported Processor detected on Processor 1	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 1に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B29 Unsupported Processor detected on Processor 2	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 2に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B30 CPU FAN #1 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) ファンを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B31 CPU FAN #2 Alarm occurred			
0B32 CPU FAN #3 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。 (b) ファンが故障しています。 (c) PCIモジュールボードが故障しています。	(a) ファンを交換してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B40 Invalid System Configuration Data	機器構成システムの故障。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B41 System Configuration Data Read error	システム構成データのリードエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B42 Resource Conflict	PCIリソース構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで機器構成を設定し直してください。
0B43 Warning: IRQ not configured	PCI INT構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで設定し直してください。
0B44 Expansion Rom not initialized	拡張ROM初期化中のエラー。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで必要ないオプションのPCIカードの拡張ROMの展開を禁止してください。
0B45 System Configuration Data Write error	システム構成データのライトエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B47 Missing date and time synchronization	日時の同期処理に失敗し、不正となっている。	BMC間通信異常により日時の設定が壊れています。	(a) システムを再起動してください。 (b) SETUPで日時を設定し直してください。 それでも直らない場合はPCIモジュールボードを交換してください。
0B49 BMC issued Reset Command, but failed System Reset	BMCによるシステムリセットが機能しない。	BMCのリセットコマンドがきかず、システムをリセットできません。	PCIモジュールボードを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法		
0B6E DIMMs are installed out of order	DIMMの故障。	DIMMが故障しています。	DIMMを交換してください。		
0B70 The error occurred during temperature sensor reading	温度情報取得中にエラーが発生。	(a) SMBusが故障しています。 (b) 温度センサが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードがバックパネルボードを交換してください。		
0B71 System temperature out of Range	システム内温度が異常。	(a) システムを運用する環境温度が規定温度範囲外です。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を確認してください。 (b) ファンを掃除してください。 (c) ファンを交換してください。 (d) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。		
0B80 BMC Memory Test Failed	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。		
0B81 BMC Firmware Code Area CRC check failed					
0B82 BMC core Hardware failure					
0B83 BMC IBF or OBF check failed					
0B90 BMC Platform Information Area corrupted	BMCアクセスでの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。		
0B91 BMC update firmware corrupted					
0B92 Internal Use Area of BMC FRU corrupted	SROMのシャージ情報のエラー。	(a) SROMが故障しています。 (b) BMCが故障しています。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。		
0B93 BMC SDR Repository empty	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。		
0B94 IPMB signal lines do not respond	SMCの故障。				
0B95 BMC FRU device failure	SROMのシャージ情報の故障。				
0B96 BMC SDR Repository failure	BMCデバイスの故障。				
0B97 BMC SEL device failure					
0B98 BMC SEL Overflow	SELのオーバーフロー。			SEL (システムイベントログ) がオーバーフローを起こしています。	必要のないSELを削除してください。
0BB0 SMBIOS - SROM data read error	SROM読み取り中のエラー。			(a) SROMが故障しています。 (b) バックパネルボードが故障しています。	バックパネルボードを交換してください。
0BB1 SMBIOS - SROM data checksum bad	SROMのチェックサムエラー。				
0BD0 1st SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード #1上のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。		
0BD1 1st SMBus device Error detected					
0BD2 1st SMBus timeout					

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意味	原因	対処方法
0BD3	2nd SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード #1上のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。
0BD4	2nd SMBus device Error detected			
0BD5	2nd SMBus timeout			
0BD6	3rd SMBus device address not acknowledged			
0BD7	3rd SMBus device Error detected			
0BD8	3rd SMBus timeout			
0BD9	4th SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード #2上のSMBusの故障。		
0BDA	4th SMBus device Error detected			
0BDB	4th SMBus timeout			
0BDC	5th SMBus device address not acknowledged			
0BDD	5th SMBus device Error detected			
0BDE	5th SMBus timeout			
0BDF	6th SMBus device address not acknowledged			
0BE0	6th SMBus device Error detected			
0BE1	6th SMBus timeout			
0BE2	7th SMBus device address not acknowledged	バックパネルボード上のSMBusの故障。		
0BE3	7th SMBus device Error detected			
0BE4	7th SMBus timeout			
0BE5	8th SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード #2上のSMBusの故障。		
0BE6	8th SMBus device Error detected			
0BE7	8th SMBus timeout			
0BF0	Vendor ID cannot be retrieved from BP IDPR0M	バックパネルボードのSR0MからベンダIDの取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0BF1	System Structure cannot be retrieved from BP IDPR0M	バックパネルボードのSR0Mからシステム構成の取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0C00	Rompilot reports error number xx	Rompilot初期化中のエラー。	(a) SETUPの設定ミスです。 (b) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) Rompilotを再構成してください。 (b) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
8600	No working DQS value found	DQS未検出。	(a) DIMMが故障しています。 (b) 未サポートのDIMMです。	(a) DIMMを交換してください。 (b) NECの推奨するDIMMに交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意味	原因	対処方法
8610	MAC Address update failed - CoreI/O#0 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #1のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8611	MAC Address update failed - CoreI/O#0 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #1のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8612	MAC Address update failed - CoreI/O#1 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #2のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。
8613	MAC Address update failed - CoreI/O#1 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #2のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。

# ビープ音によるエラー通知

POST中のエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。

たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った(ビープコード：1-3-1-1)ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意味	対処方法
1-2-2-3	ROMチェックサムエラー	保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-1-2-4	ROMEXECコードエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-1-1	DRAMリフレッシュテストエラー	
1-3-1-3	キーボードコントローラエラー	キーボードを接続し直してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない。あるいは、DIMMのタイプが異なる	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-2	POST Memory Managerの初期設定エラー	
1-3-4-1	RAMアドレスエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-4-3	RAM LOWバイトデータエラー	
1-4-1-1	RAM HIGHバイトデータエラー	
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	
2-1-2-3	COPYRIGHTチェックエラー	
1-2	VIDEO BIOSの初期化エラー	ディスプレイ装置になにも表示されない場合は、ディスプレイのコネクタの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。 増設したPCIボードのオプションROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は、保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボード、PCIモジュールボード、増設したPCIボードを交換してください。
	オプションROM初期化エラー	
	オプションROM展開エラー	

# Windows 2000のエラーメッセージ

Windows 2000の起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

**STOP : C000021A (FATAL SYSTEM ERROR)**

**The Windows logon process.. System process terminated.**

**Unexpectedly with a status of 0x00000001 (0x00000000 0x00000000).**

**The system has been shutdown.**

**crashdump : initializing miniport driver**

**crashdump : dumping physical memory to disk**

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。また、このエラーが起きるとExpress5800/ftサーバは自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(3-61ページ)」参照)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。DATなどのメディアにファイルをコピーして保守員に渡せるよう準備しておいてください。



STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。



このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

使用中に「システムの仮想メモリが不足しています。システムのメモリを増やすかアプリケーションを終了して下さい。」と表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は、以下のことを行ってください。

1. 物理メモリを追加する。
2. ページファイルの設定を変更する(物理メモリ容量×1.5以上に変更する)。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。



# トラブルシューティング

Express5800/ftサーバが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従ってExpress5800/ftサーバをチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

## Express5800/ftサーバについて

### ? 電源がONにならない

- 電源がExpress5800/ftサーバに正しく供給されていますか？
  - 電源コードがExpress5800/ftサーバの電源規格に合ったコンセント(またはUPS)に接続されていることを確認してください。
  - 本体に添付の2本の電源コードが正しく接続されていることを確認してください。
  - Express5800/ftサーバに添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
  - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
  - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付のマニュアルを参照してください。
- また、Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。  
<確認するメニュー: 「System Hardware」→ 「AC-LINK」→ 「Power On」>
- POWERスイッチを押しましたか？
  - Express5800/ftサーバ前面2つPOWERスイッチがありますが、POWERスイッチのランプが点灯しているほうのPOWERスイッチを押して電源をONにしてください。
- CPU/PCIモジュールは正しく取り付けられていますか？
  - Express5800/ftサーバにCPU/PCIモジュールが正しく取り付けられていることを確認してください。CPU/PCIモジュールはハンドルにあるネジで確実に固定してください。

### ? OS Boot中にブルー画面になる

- BIOS設定の[Boot Monitoring]で設定した値までそのままお待ちください。自動的にBoot pairを切り替えて再起動しOSが起動します。
- もう一方のPCIモジュールのハードディスクから起動してください。

## ? 電源がOFFにならない

- POWERスイッチの機能を無効にしていますか?
  - いったんExpress5800/ftサーバを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
  - <確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Mask」→「Unmasked」>

## ? POSTが終わらない

- メモリが正しく搭載されていますか?
  - 最低1組(2枚)のDIMMが搭載されていないと動作しません。
- 大容量のメモリを搭載していますか?
  - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- Express5800/ftサーバの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか?
  - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるメモリ・PCIカードを搭載していますか?
  - NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。

## ? デバイス(内蔵・外付け)にアクセスできない

- ケーブルは正しく接続されていますか?
  - インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できる機器ですか?
  - NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。
- 電源ONの順番を間違っていないか?
  - 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、Express5800/ftサーバの順に電源をONにします。
- ドライバをインストールしていますか?
  - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付のマニュアルを参照してドライバをインストールしてください。
  - シリアルポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。
  - <確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」>
- SCSIコントローラ(オプション含む)の設定を間違えていませんか?
  - オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI機器を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付のマニュアルを参照してください。

- SCSI機器の設定を間違えていませんか？
  - 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI機器に添付のマニュアルを参照してください。

### CPUが二重化しない

- メモリの構成はあっているか確認してください。
- NEC以外(サードパーティ)のCPUやメモリ(DIMM)を実装していないか確認してください。

### ディスクの二重化設定ができない

- 順通りにミラーリング(故障交換後の再構築含む)を実施しないと、ミラーが(再)構築できない場合があります。手順を確認してください。

### キーボードやマウスが正しく機能しない

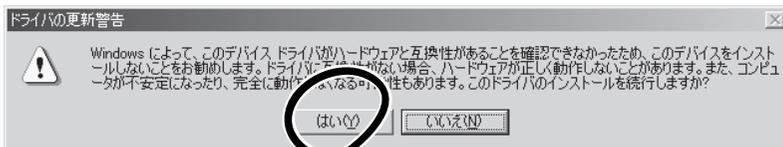
- ケーブルは正しく接続されていますか？
  - Express5800/ftサーバ背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるキーボード・マウスですか？
  - NECが指定する機器以外は動作の保障できません。
- BIOSの設定を間違えていませんか？
  - Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更することができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。  
<確認するメニュー: 「Advanced」→ 「Keyboard Features」>
- ドライバをインストールしていますか？
  - 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付のマニュアルを参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- PS2-USB変換コネクタを使用していますか？
  - PS2-USB変換コネクタはサポートしていません。装置添付またはNコード品のキーボード・マウスを接続してください。

### 画面が止まり、キーボードやマウスが機能しなくなる

- メモリをたくさん搭載した場合、システム起動中やCPUモジュールの二重化中メモリコピーに時間がかかり、このときシステムは止まりますが、故障では有りません。

## Windows 2000 のインストール後にデバイス マネージャで日本語 106/109 キーボードが英語 101/102 キーボードと認識される。

- デバイス マネージャでは英語 101/102 キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語 106/109 キーボードの配列で行うことができます。日本語 106/109 キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。
1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
  2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
  3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。  
101/102 英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2 キーボード
  4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
  5. [このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示]を選択し、日本語 PS/2 キーボード(106/109 キー)を選択して[次へ]をクリックする。
  6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
  7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



## [新しいハードウェアが見つかりました]とメッセージが表示される

- システム起動時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、新しいハードウェアを追加していないのに[新しいハードウェアが見つかりました]～SCSI Other Deviceメッセージが表示されることがありますが、本装置における動作の仕様によるものであり、本装置の動作には問題はありません。

## フロッピーディスクにアクセス(読み込み、または書き込み)ができない

- フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？  
→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。
- 書き込み禁止にいませんか？  
→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。
- フォーマットしていますか？  
→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付のマニュアルを参照してください。

### ? CD-ROMにアクセスできない

- CD-ROMドライブのトレイに確実にセットしていますか？  
→ トレイにはCD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるCD-ROMですか？  
→ Macintosh専用のCD-ROMは使用できません。
- POWERスイッチのLED点灯 (Primary側) PCIモジュールのCD-ROMドライブですか？  
→ 本装置には2台のCD-ROMが実装されていますが、使用できるのは、POWERスイッチのLED点灯 (Primary側) PCIモジュールのCD-ROMドライブです。どちら側のCD-ROMドライブであるか確認してください。

### ? ハードディスクにアクセスできない

- Express5800/ftサーバで使用できるハードディスクですか？  
→ NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ハードディスクは正しく取り付けられていますか？  
→ ハードディスクのハンドルにあるレバーで確実にロックしてください。不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません(8-9ページ参照)。また、正しく接続されている場合、Express5800/ftサーバの電源がONの間、ハードディスクにあるランプが点灯します。

### ? OSを起動できない

- フロッピーディスクをセットしていませんか？  
→ ディスクを取り出して再起動してください。
- EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？  
→ EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。
- OSが破損していませんか？  
→ 修復プロセスを使って修復を試してください(7-44ページ)。

### ? Windows 2000を正しくインストールできない

- インストール時の注意事項を確認していますか？  
→ 3-32ページを参照してください。

### ? セットアップの途中でリブートする

- BIOSの設定はありますか？  
→ Boot Monitoringの設定を確認してください。

### ? OSの動作が不安定

- システムのアップデートを行いましたか？  
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。3-67ページを参照してシステムをアップデートしてください。

### ? 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で設定どおりに動作しない

- 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

## ❓ ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン: POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

## ❓ ネットワーク上で認識されない

ケーブルを接続していますか？

→ Express5800/ftサーバにあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ Express5800/ftサーバ専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

転送速度の設定を間違えていませんか？

→ Express5800/ftサーバに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbps、または10Mbpsのいずれかのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているHubと同じ転送速度で固定に設定してください。また、接続しているHubとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

転送速度を固定にするにはPROSet IIにて設定します。

左側のツリーにて変更するアダプタを選択し、100Baseアダプタの場合は[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]にて設定を行います。1000Base-Tアダプタの場合は[Link Config]タブをクリックします。[Auto Negotiation]に[Enabled]を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度のみチェックを行う)。

## ❓ エクスプローラ上でAドライブのアイコンが、リムーバブルディスクのアイコンに変わってしまう

→ 異常ではありません。そのままお使いになっても問題ありません。

## ❓ システムイベントログに「NMSサービスは不正に終了しました」というログが記録される

→ システム立ち上げ時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、以下のログがシステムイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

NMSサービスが停止するとPROSet IIでの設定更新が無効となりますが、実際は、PROSet IIを起動するとNMSサービスが自動起動されるため設定更新は正常に行われます。そのままお使いになってください。

「ソース : Service Control Manager

ID : 7031

説明 : NMSサービスは不正に終了しました。これは1回発生していません。次の修正動作が0ミリ秒以内に行われます：何もしない」

### システムイベントログに iANSMiniport関連のログが記録される

→ システム立ち上げ時に以下のログがシステムイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません(説明中のX: 数字)。

「ソース : iANSMiniport

ID : 35

説明 : Initializing Team #X with X missing adapters. Check the configuration to verify that all the adapters are present and functioning.」

### システムイベントログに、ESMCpuPerf関連のログが記録される

→ システムの一時的なリソース不足や高負荷率などが原因で、OSからパフォーマンス情報が取得できないことを検出した場合にESMPRO/ServerAgentでは以下のイベントログを登録致しますが、システムの運用に特に問題はありません(説明中のYとx: 英数字・YYYYは取得できない場合もあります)。

「ソース : ESMCpuPerf

ID : 9005

説明 : システムのパフォーマンス情報が取得できない状態です(YYYY Code=xxxx)」

なお、情報が取得できない場合には、負荷率は0%として扱うため、連続して情報が取得できない事象が発生した場合、CPU負荷率は実際値よりも低く表示される場合があります。

### アプリケーションイベントログにWMI 関連のログが記録される

→ システム立ち上げ時に以下のログがアプリケーションイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

「ソース : WinMgmt

ID : 41

説明 : 009 サブキーで値が見つからなかったため、WMI ADAPはパフォーマンスライブラリvxioのオブジェクトインデックス2902 を作成しませんでした」

### アプリケーションイベントログにvmperf 関連のログが記録される

→ システム立ち上げ時に以下のログがアプリケーションイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

「ソース : vmperf

ID : 11

説明 : (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージDLL ファイルがローカル コンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:。」

「ソース : vmperf  
 ID : 12  
 説明 : (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージDLL ファイルがローカル コンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:」

### ❓ PCIモジュールの二重化に失敗する

→ PCIモジュールのフェイルオーバー時、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、二重化に失敗したPCIモジュールを再挿入することで回復することができます。

「ソース : srabb  
 ID : 98  
 説明 : Diagnostic Test Failure! 11: IRQ1 Interrupt (0xd5a1)」

→ CPU、PCIモジュールの同時交換を行う等により、CPU、PCIが同時に二重化のための同期制御が動作するような場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、二重化に失敗したPCIモジュールを再挿入することで回復することができます。

「ソース : srabb  
 ID : 98  
 説明 : Diagnostic Test Failure! 10: Xena Sanity Check (0xd630)」

### ❓ システム立ち上げ後に、VERITAS Enterprise AdministratorでDisk情報が正しく表示されない。

→ PrimaryPCIとFC Disk間のアクセスが不可の場合に、Disk情報が正しく表示されないことがあります。その場合には、「アクション/更新」または「アクション/再走査」を実行してください。

上記でも正しく表示されない場合には、ディスクとの接続を確認してください。

### ❓ 「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスに“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示される。

→ システムトレイ上の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックすると2つの“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示されます。

これらの取り外しを行わないでください。これらを取り外した場合には、接続されているPCIモジュールが強制的に切り離され、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。



## マシン起動時にレポートを繰り返す

- マシン起動時にCHKDSKが実施されていませんか？
  - リポート時にBIOS設定のユーティリティを起動し、下記の設定を変更してください。

### **BIOS設定変更**

[Advanced]－[Monitoring Configuration]－[Boot Monitoring]を「Disabled」に変更する。

詳細については、4-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。

※ CHKDSK完了後にマシンを再起動し、上記の設定を「Enabled」に戻して運用してください。

なお、CHKDSKが実施される条件は以下のようになります。

- － 次回システム起動時にCHKDSKを実行するようにスケジュールした場合
- － 前回の起動からシャットダウンまでの期間でファイルシステムの破損が検出された場合
- － システム起動時のマウント処理においてファイルシステムの矛盾（破損）が検出された場合

- BIOS設定の[Boot Monitoring Time-out Period]の設定値は妥当ですか？
  - お客様の環境に合わせて[Boot Monitoring Time-out Period]の値を適宜変更してください。

詳細については、4-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。

# EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERからExpress5800/ftサーバを起動できない場合は、次の点について確認してください。

- POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？
  - POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。
- BIOSのセットアップを間違えていませんか？
  - Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。  
<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、次のメッセージが表示されます。エラーコードを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクが接続されていないか、ハードディスクが異常です。ハードディスクが正常に接続されていることを確認してください。
マザーボード上に装置固有情報が存在しません。 オフライン保守ユーティリティの[システム情報の管理]を使用してバックアップした情報をリストアするか、情報を書き込んでください。 この作業は、保守員以外には行わないでください。 オフライン保守ユーティリティを起動しますか？	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDERが装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。保守員はオフライン保守ユーティリティを使用して情報を書き込んでください。

この他にもシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

# ftサーバセットアップについて

## ? セットアップの開始時に次のメッセージが表示された

指定された disk が見つかりません。SW インストールを終了しています。

→ システムをインストールするディスクが正しく接続されていないことが考えられます。ハードウェアの取り付け状態や接続状態を確認してください。

## ? CD-ROMからファイルをコピー中に次のメッセージが表示された。

```
xxxxx : Not Ready xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxZ  
xxxxx(A), xxxxx(R), xxxxx(F)
```

→ <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示される場合は、セットアップをはじめからやり直してください。それでも同じ結果が出たときは保守サービス会社に連絡して、CD-ROMドライブの点検を依頼してください。

## ? 間違ったプロダクトID/CDキーを入力してしまった。

→ 間違ったプロダクトID/CDキーを入力すると再入力を要求されます。正しいキーを入力してください。

## ? ネットワークアダプタの詳細設定ができない。

→ Express5800/ftサーバのセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windows 2000起動後、コントロールパネルから設定してください。

# マスターコントロールメニューについて

## ? オンラインドキュメントが読めない

HTMLブラウザが正しくインストールされていますか？

→ オンラインドキュメントは、HTML文書です。あらかじめHTMLブラウザ (Internet Explorer 5.x以降) をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。

HTMLファイルの関連付けは正しいですか？

→ オンラインドキュメントはCD-ROM上のローカルファイルをアクセスします。Internet ExplorerとNetscape Communicatorが共存しているとHTML文書の拡張子 (.htm、.html) がブラウザに正しく関連付けられていないことがあります。次の手順で (Internet Explorer 5.0の場合) 関連付けを設定してください。

1. Internet Explorerを起動する。
2. Internet Explorerのメニューから、[ツール]—[インターネットオプション] を選択する。
3. [プログラム]タブをクリックし、[Webの設定のリセット]をクリックする。
4. 確認のダイアログボックスが現れるので[はい]をクリックする。

- Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか？
  - オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader (Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができません。マスターコントロールメニューを起動後、[ソフトウェアのセットアップ]の[Adobe Acrobat Reader]を選択してください(インストール後、Acrobat Readerを起動して使用許諾契約書に同意してからご使用ください)。

### **?** オンラインドキュメントの画像が見にくい

- ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか？
  - ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

### **?** マスターコントロールメニューが表示されない

- ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか？
  - CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。
- <Shift>キーを押していませんか？
  - <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。
- システムの状態は問題ありませんか？
  - システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

## ESMPROについて

### ESMPRO/ServerAgentについて

- 「ユーティリティのインストールと操作」の5-16ページ以降の説明を参照してください。

### ESMPRO/ServerManagerについて

- 「ユーティリティのインストールと操作」の5-41ページ以降の説明を参照してください。また、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

# 障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

## イベントログの採取

Express5800/ftサーバに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



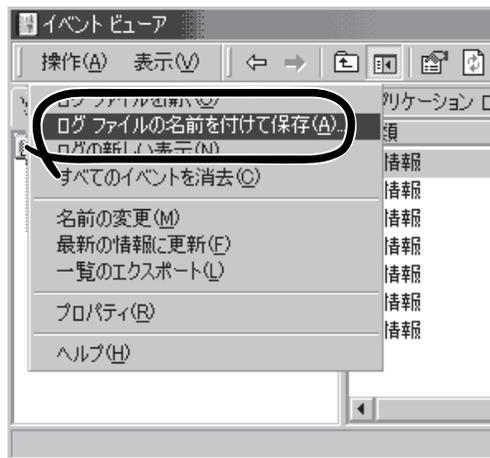
STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから[管理ツール]—[イベントビューア]をクリックする。

2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindows 2000のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。



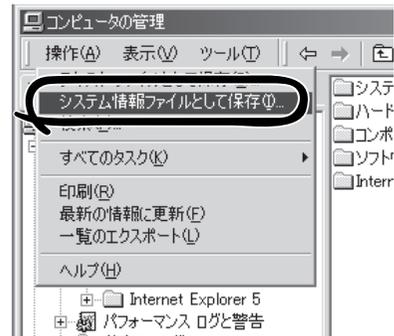
## 構成情報の採取

Express5800/ftサーバのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。  
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。  
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
3. [システムツール]-[システム情報]をクリックする。
4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. [保存]をクリックする。



故障かな？と思ったらときは

## ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。  
診断情報の保存先は任意で設定できます。

詳しくはスタートメニューの[ファイル名を指定して実行]で「drwtsn32.exe」で起動する  
[Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスにある[ヘルプ]を参照してください。

# メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、保存に利用したソフトウェアの名称(例: NTBackup)をラベルに記載しておいてください。診断情報の保存先は任意に設定できます。詳しくは「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(3-61ページ)」を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

## 採取のための準備

DUMPスイッチを押してダンプを実行した後にExpress5800/ftサーバをリセットできなくなる場合があります。この場合、強制シャットダウン(4-38ページ参照)でExpress5800/ftサーバを強制的にリセットしなければならなくなりますが、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「Masked」に設定しておくことで、POWERスイッチの機能が無効になるため、強制シャットダウンができなくなります。万一の場合、強制シャットダウンでExpress5800/ftサーバをリセットできるように次の手順に従ってExpress5800/ftサーバの設定を変更しておいてください。

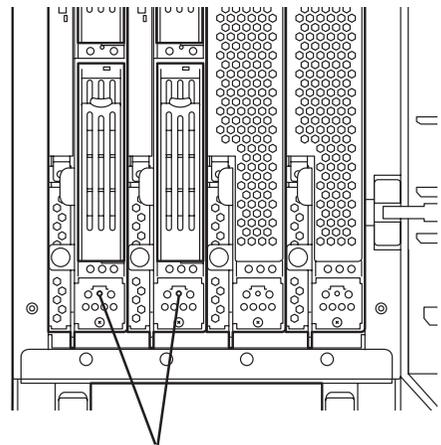
1. Express5800/ftサーバの電源をONにして、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を起動する(4-2ページ参照)。
2. 「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「UnMasked」に設定する。
3. 設定内容を保存して、SETUPを終了する。

## メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。



DUMPスイッチ

# IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていないと表示されません。

1. スタートメニューから[プログラム]—[ESMPRO ServerAgent]—[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

[ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

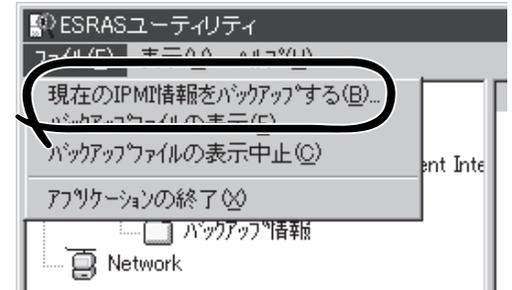
2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

データが表示されれば取得ができたこと



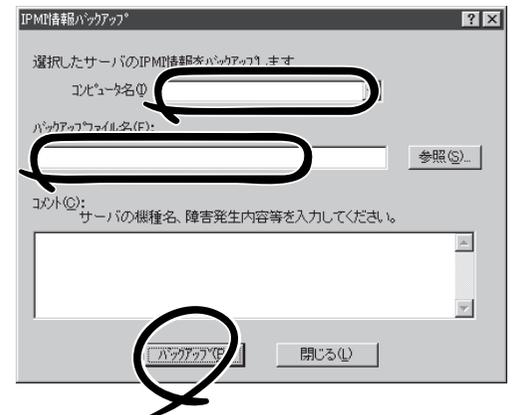
になります。

3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。



# システムの修復

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「修復プロセス」を使ってシステムを修復してください。



重要

- システムの修復後には3-67ページの「システムのアップデート」を参照して必ず各種ドライバをアップデートしてください。
- ハードディスクが認識できない場合は、システムの修復はできません。
- オプションのPCIボードは、すべて取り外してから作業を開始してください。

ここで説明する「システムの修復」では「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

システムの修復を始める前に「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

## ● Windows 2000、Windows NT4.0、またはWindows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちではない場合

以下の手順で「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、Express5800/ftサーバの順に電源をONにする。
3. BIOSの設定を変更する。  
「Advanced」→「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Disable」に設定してください。詳しくは4-15ページを参照してください。
4. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
5. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。  
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
6. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
7. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
8. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。  
「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

- **Windows 2000、Windows NT4.0、またはWindows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合**

以下の手順でも「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成することができます。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをWindows NT4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. [ソフトウェアのセットアップ]から「OEMディスクの作成」を選択する。
4. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

- **「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」がある場合**

以下の手順により、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」をWindows NT4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. タスクバーの[スタート] から「ファイル名を指定して実行」を選択してC D - R O Mドライブ: ¥WINNT¥BIN¥MAKEFD¥W2K¥MAKEOEM.BATを実行する。
4. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

次の手順に従ってシステム修復ディスクではなく、ディスクの中の情報を使って修復してください。

1. BIOSの設定を変更する。  
「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Disable」に設定してください。詳細については、4-15ページを参照してください。
2. システムの電源をONにする。
3. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
4. Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。
5. 画面に「Press any key to boot from CD」と表示されるのを待つ。
6. 任意のキーを押してCD-ROMからの起動を選択する。

 **重要**

メッセージが表示されている間に任意のキーを押さないとハードディスクから起動します。修復プロセスは起動できません。

7. 画面に「Press F6 if ...」と表示されるのを待つ。
8. すばやく<F5>キーと<F6>キーを押す。

 **重要**

<F5>、<F6>キーを押さないと修復プロセスは動作しません。

9. テキストベースのセットアップが始まったら、画面の指示に従って操作を進める。  
操作を進めていくと、HALを選択する画面が表示されます。
10. 「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、フロッピーディスク内にあるモジュールを指定する。  
操作を進めていくと、SCSIドライバを選択する画面が表示されます。
11. 「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、フロッピーディスク内にあるSCSIドライバを指定する。  
操作を進めていくと、SCSIドライバを選択する画面が表示されます。

 **チェック**

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には複数のSCSIドライバがあります。  
<S>キーを押してすべてのSCSIドライバを選択してください。

「インストール済みのWindows 2000を修復するには、Rキーを押してください。」というメッセージが表示されます。

12. <R>キーを押して修復オプションを選択する。
13. キーボードの種類を選択する。

14. 選択を求められたら、<R>キーを押してシステム修復処理を選択する。

15. 選択を求められたら、次のうちのどちらかを選択する。

[手動修復]<M>キーを押す) 高度なユーザーかシステム管理者以外はこのオプションを選択しないでください。このオプションを使うと、システムファイル、パーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境の問題を修復することができます。

[高速修復]<F>キーを押す) このオプションは使い方がとても簡単で、ユーザーは何もする必要はありません。このオプションを選択すると、システム修復ディスクプログラムが、システムファイル、システムディスクのパーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境(システムに複数のオペレーティングシステムがインストールされている場合)に関連した問題の修復を開始します。

16. 画面に表示される指示に従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面では、<L>キーを押す。

ディスクの検査後、システムは一度、再起動されます。



システム修復ディスクを使用しない処理を行います。

17. 手順1~15を繰り返す。

修復処理が開始されます。

修復処理の間に、見つからないファイルや破損したファイルが、ハードディスク上C:\\$1386のファイルがシステムパーティションのsystemroot¥Repairフォルダのファイルに置き換えられます。置き換えられたファイルは、セットアップ以降に行った構成の変更を一切反映していません。

18. 画面に表示される指示に従って操作する。

障害が検出されたファイルの名前を控えておくと、システムがどのように破損していたのかを診断するのに役立ちます。

19. 修復に成功した場合は処理を終了する。

コンピュータが問題なく再起動したことで置き換えられたファイルがハードディスクに正しくコピーされたことがわかります。

20. システムのアップデートを実行する。

詳細については、3-67ページを参照してください。

21. BIOSの設定を変更する。

「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enable」に設定してください。詳細については、4-15ページを参照してください。

